

はじめに

島根県では、平成 18 年に「宍道湖・中海水産資源維持再生構想」を策定し、汽水域の特性や環境・生態系との関連を重視した「環境保全型の漁業」の推進を図るため、ヤマトシジミ（以下、シジミ）資源の永続利用やワカサギ、シラウオ資源の回復と維持など様々な施策を展開してきました。その後、平成 23 年からは、「宍道湖・中海水産資源維持再生構想」の方向性を継承した「第 2 期宍道湖・中海水産資源維持再生構想」および「新たな農林水産業・農山漁村活性計画」に基づき、宍道湖では「漁業の維持増大」を目指したシジミ資源の維持・増大や有用魚介類の資源回復手法の確立など様々な取組みを継続して進めてきました。

宍道湖におけるシジミ漁獲量は、昭和 40 年代後半から 60 年代にかけて 1 万トンを超える水揚げがありましたが、平成に入って漁獲規制が次第に強化されたこともあり、緩やかに減少を続けました。そして、平成 18 年豪雨の影響によるシジミ大量へい死以降、シジミ資源が変調を来し、宍道湖漁業協同組合による休漁日の増加や漁業者一人一日当たりの漁獲量上限を引き下げるなど漁獲規制の強化を行ってきたにも関わらず、漁獲量は減少し続け、平成 19 年には 5,000 トンを切り、平成 23 年には 2,200 トンとなり、漁獲量日本一の座から転落し、平成 24 年には過去最低の 1,700 トンまで落ち込みました。

そこで、島根県では、平成 24 年度から山室真澄東京大学教授を座長とする県内外の汽水域の環境及び生物の専門家 11 名で構成される「宍道湖保全再生協議会」を組織し、総合的なアプローチによりシジミ資源の急減の原因や宍道湖で近年起こっている様々な現象の原因を科学的に解明し、その結果に基づいて宍道湖の復活につながる提言を行うことを目指しました。幸いにも本協議会が活動を開始して 2 年目になる平成 25 年秋にはシジミ資源が急回復し、また近年発生していた様々な現象についても科学的な解明が進みました。

本書では、このプロジェクトにより解明された事柄の概要を報告し、それらに基づいてシジミを始めとする水産資源や宍道湖の生態系の保全・再生に向けた提言を行います。なお、プロジェクトの個別の研究結果の詳細については別途報告を取りまとめていますので、農林水産部水産課または水産技術センター内水面浅海部内水面科にお問い合わせください。

なお、これらの問題の解決のためには河川管理者である国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所や島根県環境政策課の協力が不可欠であったことから、これらの機関の関連試験研究事業や委員会などとも連携して研究活動を推進しました。ここに感謝の意を表します。

表 宍道湖保全再生協議会委員名簿

所属	職名	氏名	任期
東京大学大学院新領域創成科学研究科	教授	山室 真澄	2012～2017年
海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所	グループ長	井上 徹教	2012～2017年
埼玉大学大学院理工学研究科	教授	浅枝 隆	2012～2017年
静岡県立大学食品栄養科学部	教授	谷 幸則	2012～2017年
北海道大学大学院水産科学研究院	教授	笠井 亮秀	2012～2017年
島根大学エスチュアリー研究センター	教授	矢島 啓	2012～2017年
水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所	グループ長	浜口 昌巳	2012～2017年
島根大学エスチュアリー研究センター	特任教授	清家 泰	2012～2017年
島根大学教育学部	教授	大谷修司	2012～2017年
NPO 法人自然と人間環境研究機構	理事長	石飛 裕	2012～2013年
宍道湖漁業協同組合	参事	高橋 正治	2012～2017年

※ 所属・職名：平成30年3月1日現在

関係機関および事務局

	機関名	氏名	備考
関係機関	国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所	西尾 正博	オブザーバー
	島根県保健環境科学研究所	神谷 宏	オブザーバー
	島根県環境生活部環境政策課		
	島根県水産技術センター		
事務局	島根県農林水産部水産課		